

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100096
法人名	有限会社 スローライフ
事業所名	ぐるうぷほうむ54番地
所在地	松山市水産町54番地
自己評価作成日	平成22年9月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「利用者さんと一緒に作る暮らし」を合言葉に、料理や、おかしづくり、共有空間のアレンジなど、みんなで楽しみながら暮らしに花を添えています。地域に住まい、幼稚園や小学校に子供らが通う職員も多く、幼稚園や小学校、中学校そして、子供たちを含め、地域との交流という面では、有利な条件がそろっています。この強みを生かして、さらに、地域との関係を深めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

駐車場の出入り口には、ジュースの自動販売機とベンチを設置して、休憩できる場所を作っておられる。居間には、畳を一畳分置いて座る場所を作り、又、椅子が各所に配置されており、利用者がそれぞれお好きな場所で過ごせるようになっていた。台所は居間と境目のない造りで、調理している職員の後で、利用者がテーブルでおしゃべりしたり調理の下ごしらえをされていた。1階は、居間から庭に出られるようになっており、雨の日にもちょっと外に出られるようになっている。
「身体拘束はしない」ことを、事業所全体で決めておられる。興奮した状態にある利用者が転倒したようなこともあったが、法人代表者からのアドバイスも受けて「気持ちが落ち着くのを待つ」ことに取り組み、その後で処置して、ご本人も落ち着かれたようである。又、落ち着かず事業所内を動きまわるような利用者の方もいるが、2階の洗面所にはカーテンを引く等「危険なもの等を遠ざけ」ご本人の行動を止めることがないようにされている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 ぐるうぷほうむ54番地

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 喜井 伊久里

評価完了日 平成 22 年 9月 11日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を共有し、実践できるよう心掛けている。 (外部評価) 事業所では、法人系列事業所全体で「尊厳の保持」「自立支援」を理念に掲げておられる。管理者は、理念に基づき、利用者と職員の関係が「してあげる・してもらうの関係にならない」よう指導されており「利用者がしてほしいことを考える」ことを職員に話しておられる。さらに「地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念」についても、この機会に「事業所が地域の中でどのようなことを目指していくか」ということについて話し合ってみてはどうだろうか。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 施設前の神社の夏祭りでお店を出したり、近くの幼稚園の園児にホームに来てもらったりして、地域の方との交流をしている。 (外部評価) 事業所の前にある神社の夏祭りの際、管理者が事前に地区の区長と話し合っ、今年はホームで駄菓子屋を出店された。10月の地方祭には、獅子舞や神輿が来てくれることになっている。利用者が一人で出て行かれていますと「車いすであっちに行きよったよ」と近所の方が教えて下さることもあり、管理者は「近所の方がホームのことを知ってくださって来ている」と感じておられた。又、「まもるくんの家」に登録されている。	事業所の前には神社や公民館・公園もあり、管理者は、事業所を「地域の人達が気軽に立ち寄れるような場所にしたい」と考えられている。運営推進会議等も活かして地域の方達とのかかわりを積極的に作り、地域のいろいろな方が来やすい事業所作りに向けて取り組みをすすめていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 人材育成のため、実習生や研修生、ボランティアの受入をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 家族や地域の方に参加して頂き、サービスの取組み等の報 告や話し合いを行っている。そこで頂いた意見は、実現可能 なことから取組み、次の会議に報告ができるように努力し ている。</p> <p>(外部評価) 管理者の交代等もあり、運営推進会議の開催が難しかったよ うである。1月の会議時には、地区の区長や民生委員の方等 にも参加いただき「サロンみどろ」の活動情報を教えていた だいたり、地域の避難訓練の日程等を教えていただき、職員 3名で参加された。</p>	<p>概ね2か月に1回の会議の開催に向けて、計画的に会議をす ずめていかれてはどうか。管理者は、会議を「茶話 会」のような形式にして「参加しやすい会議」にしたいと話 しておられた。又、「法人代表者に認知症の話をしてほし い」というような声も出ているようである。ホームや認知症 のことをさらに知ってもらったり、地域の情報を集めて交流 につなげ、地域との関係も深めていかれてほしい。さらに、 ご家族に会議の意義や目的を伝えたり、会議の議事録等も送 付して理解、協力を促し、いろいろな立場の方と意見交換が できるような会議となるよう、取り組んでいかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 認定更新等の機会に、担当者へ利用者の様子や状態を伝え、 協力関係を築くように努めている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター主催の介護事業所の集まりや地区のグ ループホームの集まりに出かけて、同業者と意見交換をされ ている。各事業所が交代で司会を担当して、テーマを決めて 話し合いをされている。</p>	<p>地域包括支援センター主催の介護事業所の集まりや地区のグ ループホームの集まりに出かけて、同業者と意見交換をされ ている。各事業所が交代で司会を担当して、テーマを決めて 話し合いをされている。</p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日中は施錠はしていない。夕方からは、安全のため施錠する ようにしている。外に出ようとされる利用者がいれば、声か け、付き添いをし見守るように努めている。身体拘束はしな いケアを話し合い、取り組むように心掛けている。</p> <p>(外部評価) 「身体拘束はしない」ことを、事業所全体で決めておられ る。興奮した状態にある利用者が転倒したようなこともあっ たが、法人代表者からのアドバイスも受けて「気持ちが落ち 着くのを待つ」ことに取り組み、その後で処置して、ご本人 も落ち着かれたようである。又、落ち着かず事業所内を動き まわるといった利用者の方もいるが、2階の洗面所にはカー テンを引く等「危険なもの等を遠ざけ」ご本人の行動を止め ることがないようにされている。</p>	<p>「身体拘束はしない」ことを、事業所全体で決めておられ る。興奮した状態にある利用者が転倒したようなこともあっ たが、法人代表者からのアドバイスも受けて「気持ちが落ち 着くのを待つ」ことに取り組み、その後で処置して、ご本人 も落ち着かれたようである。又、落ち着かず事業所内を動き まわるといった利用者の方もいるが、2階の洗面所にはカー テンを引く等「危険なもの等を遠ざけ」ご本人の行動を止め ることがないようにされている。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			人間としての尊厳を重視した対応を心掛けている。月に1回のミーティングで、勉強会をするなどして、職員の認識を向上させている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			今後、学ぶ機会を持ち、活用できるようにしていきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約時は十分な説明をし、利用者や家族の不安や疑問を聞き、理解・納得していただけるように心掛けている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			面会時に、生活の様子を細かく伝え、意見や要望を伺うようにしている。ミーティング等で、話し合い、思いに添えるように努力している。	
			(外部評価)	ご家族の心情を踏まえて、管理者は「毎月ご家族に電話をして、お話をしながらご家族の意見や要望を引き出していきたい」と話しておられ、ゆくゆくは「家族会」が開催できるよう、すすめていきたいと考えられました。ご家族が「気になること」「知りたいこと」等を探り、情報提供を工夫していかれてほしい。利用する側であるご家族の気付きやご意見を具体的に引き出して、事業所のケアサービスの質の向上への取り組みにつなげていかれてほしい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回のミーティングで、職員の意見や提案を聞き、話し合っ、反映させている。	
			(外部評価) 事業所では「日替わりリーダー」を決めて、リーダーが職員個々からの意見や要望を集めて、管理者に伝えるようにされている。又、その日の勤務職員が、法人代表者に業務報告を行うようになっている。職員は「日常的に相談できる体制や責任者」を希望されており、管理者は今後「班長」を決めて、ホームをまとめていきたいと考えておられた。又、職員は「研修等も受講して技術や知識等についても学びたい」と話しておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者も現場に行き、職員一人ひとりに声をかけ、思いを聞き、環境の整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 以前は研修に参加したスタッフが、研修の内容を伝えてくれていたが、現在は、ミーティングでの相互話し合いを行っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 以前は交流があったが、今は少なくなっている。他の施設の方が、見学に来られることはある。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族から聞いた情報を職員間で共有するようにしている。声かけをしたり、コミュニケーションを取ったりする時間を多めに取るように心掛けている。今までの生活状況や好みなどを聞き、安心して貰えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 困っていることや不安に思っていることをお聞きして、状況を把握し、よりよい関係作りに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の状況を確認・把握し、必要としている支援を見極め、対応できるよう努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を共にして、洗濯・買い物・食事作りなど、できることを一緒に行うようにしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出時や行事の時には、連絡し参加の呼びかけをしている。写真を撮影し、参加できなかった家族に見ただけのようにしている。何かあれば、連絡し相談して、希望に添えるように努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族だけに限らず、面会できるようにしている。面会時に落ち着いてお話等できるように、環境づくりにも配慮している。本人が行きたい場所やしたいことなどを聞き、できる限り、実現できるよう支援している。 (外部評価) ご自宅の隣人だった方がよく訪ねて来てくださったり、「自宅に帰りたい」「自宅が気になる」ような利用者も多く、ご家族にはご本人の意思を伝え、少しの時間でもご家族と過ごせるよう働きかけておられた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングでの関わりとして、貼り絵をしたり、歌を歌ったりする時間を持つようにしている。その際、お互いの顔が見えるようにセッティングし、利用者同士が関わりが持てるように配慮している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要があれば、相談に応じたり、フォローするように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いが汲み取れるよう、日常の観察・声かけを実施している。本人が伝えることが可能な場合は思いや希望をお聞きし、困難な場合は、日々の生活の様子や表情・発する言葉などから、把握するように努めている。 (外部評価) 年1回、要介護認定更新時に、利用者個々のアセスメント表も書き替えるようにされている。項目に沿ってご家族も記入する欄があり、ご家族に郵送等をして記入してもらっている。洋服の寄付が沢山あった際には、利用者個々にお好きなものを選んでいただくようにされ、職員は、利用者が真剣に洋服を選ぶ姿を見て、選ぶことの大切さを知り、その後、日々のおやつ等についても選んでもらえるように支援されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に本人・家族から聞いた情報をフェイスシートに記入、職員間で共有するようにしている。また、本人との日頃の会話の中で聞いたり、面会の際に家族からお聞きするなどして、把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常の様子を観察し、朝・夕の申し送りの際に報告し合い、職員間で共有し、把握している。報告・連絡・相談を密にするように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月に1回ミーティングを行い、話し合いの場を持っている。介護計画は6ヶ月ごとに見直しをし、本人の現状にあった介護計画を作成するようにしている。毎月、月末には一人ずつ、様子や変化、困ったことを記入し、現状を把握するように努めている。</p> <p>(外部評価) 毎月のミーティングでの話し合いと月末に担当者二人で作成する「困ったことカード」の内容をもとに、半年ごと介護計画を作成しておられる。日々の介護記録には、介護計画について記入する欄を設けておられるが、現在は記入するまでに至っていない。記録類の保管については、今月前月分を事業所に保管して、その他はすべて法人事務所で管理するようになっている。</p>	<p>さらにご家族等とも、ご本人の暮らしとケアについて話し合いながら、具体的な支援内容を検討していかれてはどうか。又、ご家族にも分かりやすいような介護計画の作成や説明にも努めていかれてほしい。管理者は「毎月のミーティングで介護計画の支援内容についてモニタリングを行い、次の月の目標を設定したい」と話されていた。事業所には現在、非常勤職員が多数おり、統一したケアを実践することに難しさを感じておられるが、職員で介護計画を共有できる仕組み作りについても工夫を重ねていかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子や変化、気がついたことなどを、介護記録に記入し、申し送り等で職員間で情報交換し、共有している。ミーティング等で話し合い、見直し等に活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人の状態や家族の意向・ニーズに配慮しながら、話し合いを持ち、対応するようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の行事に参加したり、ホーム前の神社に参拝するなどしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族の希望を大切にしながら、ホームのかかり つけ医への受診・往診の他、希望の病院の受診がで きるように支援している。家族同行の受診が不可能な場 合は、職員が代行するようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時にご家族等と相談の上、かかりつけ医を決めて おられる。通院は、ご家族が付き添う方やご家族の都 合に合わせて職員が同行されている。協力医の定期的 な往診と、電話やファックスで状態を報告して、往診 が必要な場合はすぐ来てくださるようになってい る。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>管理者が看護師なので、日々の暮らしの中で気付いた ことや変化を報告・相談し、適切な受診や看護が受け られるように支援している。また、常にかかりつけ医 と連絡がとれる体制ができてい</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には、本人の状態等の情報を医療機関に提供 し、家族を通して、回復状況等の情報を行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事業所でできる終末期について、細かく説明し、本人 や家族と話し合いを持ち、意向や希望をお聞きし、医 師と連携を取りながら支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>状態変化時には、かかりつけ医からの説明、ご家族の 希望等も踏まえて話し合い「契約書」を作成されてい る。これまでも看取りを支援された経験もあり、協 力医等とも連絡し合ったり、往診にも来ていただきな がら看取られた。職員は「管理者が看護師で安心」と 感じておられ「協力しながら支援していきたい」と話 しておられた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) これから、応急手当や初期対応の訓練を実施していきたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、消防・避難訓練を行い、職員・利用者で参加し、災害時の対応に備えている。	
			(外部評価) 職員の連絡網は、ホームの近くに住んでいる職員から連絡できるように並び替えて新たに作られている。昨年12月、地域の避難訓練に職員が参加されており「今回は、利用者も一緒に参加したい」と話しておられた。	管理者は10月から、事業所で月2回「消防の日」を決め、通報・消火器の扱い方等「実際に役立つ自主練習を行っていきたい」と考えておられた。又、職員数の少ない深夜帯を想定した訓練や、地域の方達との協力体制等、さらなる利用者、職員の安心安全に向けた取り組みを工夫していかれてほしい。又、そのような取り組みについては、ご家族や地域の方達にも伝えていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格や気持ちを尊重し、否定することなく、さりげないケアや声かけをするように心掛けている。パット交換の声かけや服装の乱れの訂正などする際は、本人に聞こえる程度の声で行うようにしている。	
			(外部評価) 管理者は、職員に「もてなしの心を学んでほしい」と、料亭に行かれたり、アドバイスしながら取り組みをすすめておられる。管理者は、おむつ交換を行う際にも「してあげる」ではなく「させてもらう」と考えれば、自ずと理念に沿ったケアが実践できることを伝えておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何かをする際には、声かけを行い、本人の希望を聞き、自己決定できるような環境を作るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切に、体調や様子などを見ながら、思いや希望を尊重した過ごし方が出来るように支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 好みに合わせた、その人らしいおしゃれをできるように、洋服を選ぶ手助けや声かけを行っている。鏡を見せ、身だしなみを整えるお手伝いをしたり、自分で出来ない方には、職員が考え、確認しながら、身だしなみを整えるように支援したりしてる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニューや味付けを工夫したり、旬の食材を使ったりして、楽しく食事が出来るように心掛けている。料理のお手伝いや片付けなど、出来ることを手伝って貰うようにしている。	
			(外部評価) 食事の献立は、その日の「日替わりリーダー」が食材を見て決めるようになってきている。できるだけご自分で食事が出来るよう、利用者の状態に応じて大きいスプーンを使っていたり、ミキサーにかけたり、とろみを付ける等調理されていた。ご自宅で自炊をしていた利用者は、職員と一緒に包丁を使って野菜を切ったり、下ごしらえをされる等、1階ユニットの利用者は、複数の方が食事作りにかかわっておられた。食事を終えて職員が利用者として「おいしかったね」と笑顔で話している様子がうかがえた。時にはホームの車や介護タクシーを使って外食に出かけておられ、外出を嫌がる方でも外食は喜ばれるようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は毎食チェック・記録している。食事は一人ひとりの状態に合わせた調理方法にしている。水分量のチェックはしていないが、食事やおやつの中には、飲み物を用意し、水分補給が十分できるように支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。自分でできる方は声かけ・見守りををし、出来ない方は、職員が行うようにしている。義歯を使用している方は、外して洗い、うがいをするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄記録をつけ、排泄のパターンを把握し、トイレの声かけ・誘導を行うようにしている。 (外部評価) 尿意のある方は「介助にどんなに時間を要してもトイレで排泄できるよう支援する」ことを決めておられる。尿意がはっきりしなくなってきた時期の見極めについては、毎月のミーティング等で情報を集めて職員で話し合い、支援方法を検討されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 散歩や買い物など、運動する機会を持ったり、水分をたくさん摂取したりするよう取り組んでいる。排便が出ない日が続くと、食事以外にも、牛乳やヨーグルト・水などの水分をたくさん摂るようにしたり、お腹を温めたり、マッサージをするなど、排便しやすいような環境づくりをしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに声かけし、体調や希望を確認・優先しながら、個々に応じた支援をしている。入浴時には、お話しをするなどして、リラックスして入浴できるように配慮している。 (外部評価) 浴槽は、普通の家庭にある形のものを設置されており、介護度が重度になった方も複数の職員で介助して浴槽で温まれるように支援されている。入浴の頻度等は、ご本人にお聞きして決めるようにされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を把握し、その時々様子や体調を見ながら、休息を取るよう働きかけている。日中の活動を促し、生活リズムを整え、気持ちよく眠れる環境を整えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが服薬している薬の処方箋を個人のファイルに保存し、内容についても、把握するよう努めている。処方に変更があった場合は、日誌に記入、申し送りし、職員全員が把握し、状態の変化の観察等に努めている。薬には1袋ずつつけて、名前と日付を記入し、服薬の支援を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの得意なことや好きなことを把握し、それに応じた役割をスタッフが声かけし、お手伝いをしてもらうなどしている。散歩に出掛けたり、リビングで折り紙や習字、歌を歌うなど、気分転換の支援をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や体調などを考慮しながら、散歩や買い物など、外出する支援をしている。遠方も、予定を立てて、出掛けられるようにしている。	
			(外部評価) 「遠出をすると利用者の表情がいつもより良い」という職員の意見があり、月に1回は外食や買い物、花見等に出かけられるよう取り組まれている。管理者は、今後「外に出たり散歩等の機会を多く持って、利用者が太陽の光を浴びることに心がけ冬に備えたい」と話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 事務所金庫にて、お金が管理しており、必要に応じて出金している。買い物の際には、好きなものを購入できるように職員が同行して支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から希望があれば、必要に応じて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングの飾りを変えたり、季節のお花を飾るなど、季節感を取り入れるようにしている。習字や絵の作品や、折り紙など、四季折々の作品をみんなの目のつくところへ、飾っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>駐車場の出入り口には、ジュースの自動販売機とベンチを設置して、休憩できる場所を作っておられる。居間には、畳を一畳分置いて座る場所を作り、又、椅子が各所に配置されており、利用者がそれぞれ好きな場所で過ごせるようになっていた。台所は居間と境目のない造りで、調理している職員の後で、利用者がテーブルでおしゃべりしたり調理の下ごしらえをされていた。1階は、居間から庭に出られるようになっており、雨の日にもちょっと外に出られるようになっている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングにソファや畳コーナーを設け、くつろげる空間作りをしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れたものや、思い出の品などを持ち込んで頂き、居心地よく過ごせるように工夫している。部屋の模様替えや整理をする時は、本人と一緒に、声かけ等をしながら行い、希望に添えるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>押し入れに身の回りの物を収納されている方も多い。ご自宅からたんすやテレビを持ち込まれている方もおられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>出来ることは手を出さないようにして、見守るようにしている。居室やトイレ・お風呂など、分かりやすいように表札をかけ、物の配置などにも気をつけ、安全で、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	